

イスラエルアンベールド 「ヘロデ通り」



英語版オリジナル 2017年4月28日公開 : Israel Unveiled Vol 1: Herodian Street
<https://youtu.be/RZNugydc4eo>

メッセージ by アミール・ツアルファティ

Behold Israel : <http://beholdisrael.org>

イスラエルの中で、「もしかしたら」とか「かもしれない」とか「たぶん」ではなく、100パーセントの自信を持って「私は、イエスが歩かれた場所を歩いた」と言える場所があるとすれば、それはここです。ここは、BC1世紀のヘロデ大王時代のヘロデ通りです。当時、エルサレムの中でも、最も賑やかで、人通りの多い街路の1つだったこの通りは、神殿の丘にある西の壁の真下にあります。この通りは元々、シロアムの池に下って行く道でしたが、神殿の丘の北西の角にあったアントニア要塞にまで続いていました。

この際立った通りは、ユダヤ人たちがシロアムの池から神殿の丘の方まで歩いた目抜き通りでした。神殿の丘周辺では、ユダヤ人たちが、色々な商店でいけにえ用の動物を買って、それらを自分たちのいけにえとして神殿に持って行くことが出来ました。イエス時代、私の真上には、巨大な階段を支えるアーチがありました。その階段は、ヘロデ大王が築いた神殿の丘の頂上にあつた、とても大きな商店街で買い物をする人々に利用されていました。この特殊なアーチは、今日ではロビンソンズ・アーチと呼ばれています。1800年代にそれを発見したアメリカ人考古学者エドワード・ロビンソンの名に因んでいます。この通りは、完璧な形に形成された石を綺麗に敷き詰めたとても見事な舗道です。石の中には、AD70年のエルサレム崩壊時に重い石が落ちて来たために凹んだ石もあります。私たちは、これらの石が、ヘロデ大王とローマ帝国の力、強さ、そして権力を示すはずの物であったことを忘れてはなりません。一番小さな石でも2.5トンの重さがあり、最も大きな石の重さは600トンを超えます。ガリラヤ地方の小さな村から来た者は、この世の支配者たちや彼の上にそびえ立つ建物の壮麗さ、権力、強さ、大きさと自分を比べて、自分がいかにちっぽけで取るに足りない者かを感じたのです。

私たちは、この通りで色々と凄い物を発見しました。その1つが、神殿の丘の南西の角の礎石です。そこで、人が1人立つことの出来るくぼみが見つかっただけでなく、ヘブル語で **לבית התקיעה (lebeit hatekiya)** 「ラッパを鳴らす場所へ」と読める碑文も見つかったのです。ラビの教えから分かっているように、ここは、安息日や新月や例祭の到来だけでなく、重要な人物の到来をも知らせるために、祭司が立ってラッパを吹き鳴らした場所であったと信じられています。今日でも、イスラエルの国会であるクネセトでは、イスラエル大統領や外国の大統領が訪れると、ラッパの音で歓迎します。ラッパは、宿営の移動を指揮するために、荒野の真ん中でモーセがその作製を命じた楽器であることが分かっています。それは、人々の注意を引くための手段でした。驚いたことには、それが見つかった唯一の場所が、神殿の丘の南西の角だったことです。明らかに、それは意図的に、当時のエルサレムで最も人口の多かった地域に向けられていたのです。

また、ここにある石の1つには、イザヤ書66章14節の聖句も見つかっています。2000年前にここに置かれた石に、ヘブル語の聖句が刻まれているのです。その聖句はこう語っています。

「あなたがたはこれを見て、心喜び、あなたがたの骨は若草のように生き返る。
(イザヤ書66:14)」

イザヤ書66章を読むと、これは間違いなくメシアに関する聖句です。メシアの再臨に関する預言の聖句であり、また言うまでもなく、約束の地におけるイスラエルの再建についての預言でもあります。ですから、これは非常に重要なものです。

しかし、私が今朝お話ししたい最も重要な事は、私の後ろにあるこれらの石の事です。これらの石は、AD70年のエルサレム崩壊を証ししています。その崩壊が起こる約40年前、もっと正確には38年前に、イエスご自身が「ここでは、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」と預言されました。私の後ろをご覧ください。これはイエスの言ったことが実際に起こったことを示しています。しかもイエスは、このユダヤ人の神殿がまさか再び陥落するなどあり得ない、この神殿を破壊できるような勢力などあるはずがない、と誰もが固く信じていた時代に、それを語ったのです。AD32年のエルサレムの人々は、何もかもがうまくいっていると確信していた人たちでした。宗教的であれば良い、法が命じるところを全て行って、祭日を祝って、やるべき事を行ってれば、心は重要ではありませんでした。彼らは、戒めを守っている限り、問題はないと考えていました。神が、彼らにとても満足しておられると思い込んでいたのです。ところが、旧約聖書全体を通して、預言者たちは、心が整っていなければ、神は、いけにえや祭日には関心を持っておられないことを示していました。神はイザヤ書第1章で、こう言われます。「なぜ、それらのものでわたしを煩わすのか。まず第一に、あなたの心を正してほしい。そうして初めてわたしの前に来なさい。そうすれば、わたしはあなたに大いなることをしよう。」イエスは来られて、偽善の仮面をはがし、この辺り一帯で教えられました。その教えの一つには、来たるべきエルサレムの崩壊がありました。それは不信仰のためでもあり、またエルサレムが主の訪れを見逃したからでもありました。

私は、ニューヨークでのある日のことを思い出します。初めてマンハッタンの高層ビル街を訪れた時のことです。私は、エンパイア・ステート・ビルの最上階にいました。その前日に、私は、教会で説教をしました。2001年9月9日のことです。説教の内容は、イスラム教徒によるテロがアメリカに入って来た場合、平和があるだろうか、というものでした。私は、エンパイア・ステート・ビルの最上階に立って、世界貿易センターの一部であったツインタワーを見ながら、私を招いて下さった方に、「もしも何かがこれらの建物にぶつかってきたら、どうなるのでしょうか？」と質問したのを覚えています。「ビルは左に倒れるのでしょうか、右に倒れるのでしょうか？そのような衝撃に耐えるために、どんな構造になっているのでしょうか？」その方は、私を見つめて、驚いたことにこう答えたのです。「これらの建物は、積み重ねられたトランプのように崩れるよう、造られています。ビルの崩壊によって周囲の物が何も破壊されることがないように、金属性の梁がバラバラに外れるように設計されているのです。」あの日の午後、エンパイア・ステート・ビルの最上階にいた全員が、その翌朝がアメリカと世界の歴史における節目になるなどとは、夢にも思っていませんでした。私たちは、この目で、ツインタワーが崩壊して、ニューヨークの高層ビル街から永久にその姿を消

していくのを目撃しました。あの時、誰もが、何も起こることはないと確信していたように、イエス時代のエルサレムの住民も、彼らの神殿は世界中のどんな勢力にも破壊されることはない、と確信していたと信じます。イエスの言葉は、真摯かつ真実で、まもなく実現しようとしていました。興味深いのは、古代の預言がイエスによって成就された事に関しては、皆、イエスの言葉をとて真剣に受け止めたがるのに、未来のこととなると、とても慎重になることです。イエスの言葉を文字通りに受け取るべきなのに、それを躊躇します。イエスは、「石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」と言われました。私の背後にあるのは、主のみことばの真実さを証しするものです。それにもかかわらず、今日まだ「食べて、飲んで、めとる」という世界に生きている人たちが大勢います。彼らは、聖書に書かれている神のみことばの通りに、大なる裁きがこの世を待ち受けていることを理解していません。私はこの聖句を思い出します。弟子たちが空になった墓に来た時、マタイの福音書28章6節にこう書かれています。御使いは彼らに言いました。

「ここにはおられません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。
(マタイの福音書28:6)」

イエスの言葉には、力があります。イエスは、ご自身が蘇ると言われました。彼らは、その言葉を文字通りに受け取りませんでした。これは、何か比喩的な表現だと思ったのかも知れません。しかし、イエスは、文字通りに本気で語られたのでした。彼らが空の墓にやって来た時に、「イエスはここにはおられません」、「前から言っておられたように」と、彼らに告げなければならなかったのは御使いでした。イエスが蘇られてから、数々の奇跡を行われただけではなく、数週間後、イエスが天に昇られた日に、使徒の働き1章10節で、弟子たちが見つめていると、御使いが彼らに言いました。

「イエスが上って行かれるとき、弟子たちは天を見つめていた。...『ガリラヤの人たち。なぜ天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。』
(使徒の働き1:10-11)」

同様に、同じように、同様の方法で、です。あなたがたはイエスが天に上って行かれるのを見えています。イエスが戻って来られる時、あなたがたはイエスと一緒にここにいることになります。いいですか。イエスは、戻って来られます。まず、イエスは、花嫁を迎えに来られます。イエスに属する者たちを連れて行くために。ヨハネの福音書14章3節で、イエスが約束された通りです。

「わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。(ヨハネの福音書14:3)」

イエスは、天国におられます。天におられるのです。そして、まず最初に、花嫁をご自身のおられるところにおらせるために、迎えに来られます。そしてご存知の通り、ゼカリヤ書第14章には、「見よ。主の日が来る。」と書かれています。その時、主の聖徒たちが主と共に来ます。そして主の足がオリーブ山の上に立ちます。

あなたは、神のみことばを真剣に受け止めますか。イエスが、来られたのと同じ有様で、また戻って来られるということ、理解していますか。イエスが、蘇られたのと同じ有様で、またおいでになることを理解していますか。ガリラヤの人たちのようであってはなりません。彼らは、復活について何度も何度も繰り返し聞いていたのに、驚きました。世の人たちのようであってはなりません。彼らは、揺り動かされるものはすべて揺り動かされ、神のものだけが依然として立ち続ける、ということ、理解していません。あなたは、いつなのか、また、どういう時かを理解していますか。聖書には、テサロニケ人への手紙第一5章1～11節に、こう記されています。

「兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。(世の)人々が『平和だ。安全だ。』と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていきましょう。眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶるとしてかぶって、慎み深くしていきましょう。神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。ですから、あなたがたは、今しているとおおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。
(テサロニケ人への手紙第一5:1-11)」

あなたがまだ生きていても、死んでいても、イエスは来て、私たちをご自身と一緒におらせてくださるために連れて行ってくださいます。それは、世にとっては、衝撃的な出来事になります。なぜなら、そのことは、私たちがいなくなった間に、この世には大患難が訪れようとしていることを意味することになるからです。兄弟姉妹の皆さん、私の後ろにあるのは、神のみことばが真実であることの証しです。真実は、時には分かりにくく、時には理解しにくいものです。けれども、あなたがみことばにあって、主と共にあるならば、みことばを読んで理解するだけではなく、それに備えていなければなりません。他の人々のように、眠らないようにしましょう。目を覚まして、慎み深くしていきましょう。主のみことばは、真実です。